

衆議院議員 東京20区野党代表
日本共産党

宮本 徹



国会通信

2022年7月 No.64

宮本徹事務所
東村山青葉町2-29-2
TEL:042(391)4139
FAX:042(395)7069

山添拓再選、公約実現へ力合わせ 無党派層、女性、10代で1位



安倍元首相を追悼する

最後に交わした言葉

安倍元首相が選挙演説中に凶弾に倒れました。心からご冥福をお祈りします。安倍さんとは議員会館のフロアが同じでした。国会質問の場では、時には、加計学園問題や桜を見る会など厳しく追及することもありましたが、エレベーターで一緒した際は、「岸田さんはやりにくくないですか」など、気さくに言葉をかけてきました。私も、ずけずけ、疑惑の真相を問いかけたこともあります。

私が、最後に、安倍元首相からかけられた言葉は、「やはり、自民党と共産党で対決するのがいいですね」という言葉でした。周囲にいた自民党議員が「すごいおさそいですね」と驚いていたことを思い出します。

議席数の大小は関係なく、日本の政治の対決軸は、自民党対日本共産党です。安倍さんと最後に交わした言葉もしっかり受け止め、国民の暮らしの向上と人権、民主主義、平和のために、自民党政治のゆがみと真向から対決しながら、政治革新へ力を尽くしていきたいと思えます。

安倍さんとの初テレビ質問を振り返る

安倍さんとののはじめてのテレビ中継の質問は、2017年1月の予算委員会でした。私は、ライフワークである教育無償化、給付型奨学金を取り上げました。創設される給付型奨学金の対象が学生の2.5%だけというのは狭すぎると追及した際、安倍さんは「財源を確保する中で増やしていきたい」と答弁しました。私は、安倍さんがおこなって

る黒字の大企業への減税4兆円を見直せば、大学無償化、給付型奨学金の拡充をやってもおつりがくると提案しました。

半年あまりあと、安倍さんは突然、「消費税増税分の使い道を変える」ので信を問うとあって、解散総選挙を表明しました。結局、安倍さんは、消費税増税分で、大学授業料減免・給付型奨学金の対象を拡充するとし、財源については、私たちの提案に耳を傾けませんでした。企業団体献金にずっぽりつかった自民党政治では、私たちが求めた教育無償化に向けた財源ですら、低所得者ほど負担が重い消費税になってしまう。誰のための政治かという、政治の根本姿勢が問われます。



首相退任の挨拶にて 2020年9月16日

国葬には反対です。

旧統一協会問題追及チーム発足 被害根絶と政界との癒着一掃を

安倍元首相殺害で容疑者が旧統一協会（世界平和統一家庭連合）に恨みがあったと述べています。旧統一協会の反社会的行動を放置し、旧統一協会と癒着してきた政治の問題が問われています。



日本共産党は、小池晃参議院議員を責任者に旧統一協会問題追及チームを発足させました。宮本徹が事務局長です。チームの目的は、①旧統一協会の高額献金、違法献金など被害を根絶し、救済をはかること、②政治家が旧統一協会系の催しに参加、賛同メッセージを送るなど「広告塔」となり、旧統一協会から選挙での支援を受けるという、政界との癒着を清算すること、③この癒着によって、旧統一協会に有利なように行政がゆがめられていないかの究明（名称変更問題等）に取り組みます。

コロナ第7波

エアロゾル感染対策、夏はとりわけ換気が大事

冬は室内外の寒暖差で自然換気がおこりやすいですが、夏は、意識的に空気を動かして換気をおこなうことが大事です。第7波で、政府のコロナ対策分科会でも、効果的な換気方法が示されました。一方、いまだ厚労省の一部の感染対策の手引きなど、飛沫・接触感染重視で、エアロゾル感染軽視のものがああります。厚労省に、早急な是正と、感染経路と効果的な換気方法の周知徹底と支援を求めました。

宮本徹は、この2年間、国会で、新型コロナは主にエアロゾル感染で広がること、よって、換気とマスクの質がきわめて重要なことを繰り返し提案し続けてきました。岸田総理にも換気対策の強化を求めてきました。尾身会長に個人的に、パーティションが換気の妨げになっているのではないかと意見してきました。

発熱外来の拡充、抗原検査キット配布など検査・診療体制の拡充を

早期検査、早期治療で、重症化リスクがある方が重症化しないようにすること、また、感染拡大のスピードをおさえることが大事です。

財政支援をおこなって、発熱外来のキャパを増やすことを政府に求めています。また、1年前から繰り返し求めています。抗原検査キットを国民に配布することも、あらためて求めています。

高齢者、重症化リスクがある方々を守る

オミクロン株は主に高齢者と基礎疾患がある方が、重症化し、亡くなっています。亡くなった方の感染経路を沖縄県が調べたところ、3分の2が高齢者施設と医療機関でした。重症化リスクがある方々を、感染から守るためには、高齢者施設、医療機関での、職員らへの頻回検査がきわめて大事です。国会で、次の人にうつる期間の短いオミクロン株では、それまでの週1回ではなく、週2回以上が必要だと提案してきました。その後、政府は高齢者施設等での抗原検査で週2～3回の頻回検査を求めるようになりました。高齢者施設等での換気もきわめて大事です。

朝まで生テレビに出演

テレビ朝日の「朝まで生テレビ」で、投票率の低さについて「有権者の声を一つ一つ取り上げ、一緒に政治を動かすことが大事」と訴えました。



インボイス制度の中止を

インボイス制度をめぐって、漫画家協会やSF作家協会などがあいついで反対を表明しています。あらためて、財務省、国税庁担当者に制度の断念を求めました。漫画家協会など声明が出た団体の事務局から意見を聞くとの表明がありました。

インボイス発行事業者の登録番号と氏名が公表されていますが、いま、そのリストを誰でもダウンロードできるようになっています。ペンネームなどで活動している方々からは、実名がばれることにつながるのではないかと懸念が広がっています。このダウンロードの仕組みについては法律上も実務上も無くてはならないものではないことを確認しました。ただちにやめるべきです。

介護保険は改悪でなく、拡充を

介護保険制度の次期改定で、介護保険利用料がいまの原則1割から原則2割への引き上げ、要介護1・2のデイサービスや生活援助が介護保険から市町村総合事業に移されることなどの改悪が財政制度等審議会で検討されています。介護事業者の方からは「利用料負担が倍になると、小規模多機能施設など使えなくなる人がでる。その時だれが受け皿になるのか」「要介護1・2が軽度というのは現場を知らなさすぎる。認知症で徘徊が多いのも要介護1・2」と懸念の声をたくさんうかがいました。老老介護や介護離職がある中、いま必要なのは、介護サービスの拡充。税金の使い方の優先順位を間違っはけません。



暮らしネットえんでお話を伺いました。

社会的養護の子どもたちに必要な支援を

児童福祉法改正で児童養護施設等で支援が受けられる年齢上限が撤廃されます。現状は、少なくない施設で、多数のケースが18歳までの支援となっています。子どもたちに法改正の内容や制度など、権利をしらせることが大事などの意見をうかがい、厚労省に要望しました。



子供の家で早川施設長にお話を伺いました。

FMラジオ番組「宮本徹のざっくばらん」多摩レイクサイドFM79.0MHzで好評放送中。

